

近代

第14章 近代の産業と生活 1. 近代産業の発展 (1) 鉄道と海運

解説

さんいんてつどうしょうか  
**「山陰鉄道唱歌」と「汽車旅行山陰唱歌」**



(岩田勝市詞)★



(田中瑞穂詞)★

(鳥取県立博物館蔵)

**汽車旅行山陰唱歌** (抜粋) 田中瑞穂詞  
 (二番) 迎へ顔にも見えそむる  
 久松山の松蔭に  
 昔を語る城の址  
 麓にあるは鳥取市  
 (二五番) 東郷の池は鏡なし  
 美徳の山は陰うつす  
 名も倉吉の町を見て  
 赤碕鯛も味は、ん  
 (二九番) 米子深浦水碧く  
 汽船は通ふ中の海  
 錦の浦の夕波に  
 紅流す波の上

**山陰鉄道唱歌** (抜粋) 岩田勝市詞  
 (二五番) 山陰道の中央に  
 都をなせる鳥取市  
 栄ゆる土地の賑しく  
 摩尼の名寺も遠からず  
 (二八番) 天神川の川上の  
 倉吉町は工業地  
 飛白(かすり)に名ある織物や  
 生糸の産も数多し  
 此処は伯耆の米子町  
 商業日々に栄行きて  
 錦の浦の夕波に  
 通ふ汽船の賑しさ

「♪汽笛一声新橋をはやわが汽車は離れたり」で有名な「鉄道唱歌」は、正式には「地理教育鉄道唱歌」の東海道編で、1900(明治33)年に大流行した。東海道編(66番)、山陽・九州編(68番)、奥州・磐城編(64番)、北陸篇(72番)、関西・参宮・南海編(58番)があり、作詞はいずれも大和田健樹で、作曲はそれぞれに2人が競作している。

鳥取県出身の田村虎蔵も、奥州・磐城編の作曲をしている。山陰線が全通する前年の1911(明治44)年に岩田勝市の「山陰鉄道唱歌」が、全通後の明治45年に田中瑞穂の「汽車旅行山陰唱歌」が作られている。山陰線全通の祝賀的意味合いもある。作曲はともに田村虎蔵である。

また明治45年の山陰鉄道開通式にあわせて次のような祝賀の歌が作られている。

1. 「鉄道開通唱歌」(岩田詞、小学生行進曲)
2. 「開通式祝賀の歌」(田中詞、諸学校生徒合唱曲)
3. 「山陰鉄道開通唱歌」(田中詞、田村虎蔵曲)
4. 「山陰鉄道開通祝賀の歌」(田中詞・安木節付・藤原三味振付)

鉄道開通の喜びの様子がうかがわれると同時にそれぞれの歌詞から当時の沿線や鳥取の風土等も分かる。

なお、「鉄道唱歌」が流行した明治33年には、田中瑞穂が「因伯地理唱歌」(58番)を作っていたが、曲は、各自好きなようにとあり、当時大流行の「鉄道唱歌」(東海道編)で歌えたようである。(担当：小山富見男)

参考資料

- ・鳥取県立図書館「鳥取県の鉄道と観光―県立図書館所蔵資料に見る鉄道と観光―」(1995年)
- ・「歸省の旅路」(三島吉太郎作詞)  
 \*山陰線全通前の明治33年に、鳥取師範学校生の三島が、米子の実家に徒歩で帰省、当時の沿道の地理・風土・歴史を歌って作詞(120番)している。
- ・国立国会図書館デジタルコレクション「山陰鉄道唱歌」「汽車旅行山陰唱歌」

★の写真は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。